

# 【神道における一霊四魂・靈魂体の解説と

## クリヤヨガとの類似性】

※ホ・オポノポノとも似ている

※一霊四魂とは未だ知られていない私達人間を構成している実体構成のことであり、それを知覚するには肉眼ではない高次の目、高次の知覚、即ち条件付けられている脳の思考ではない未知なる知性、それは私達にとっては未知なる靈魂の視力、即ち高次で純粹無垢なる心を必要としております。

この一霊四魂の知識は神道の先達達が高次の知覚を以て把握した実体、私達を構成している未知なる私達の構成実体であり、各次元を貫いている実体であり、単なる心の各機能の解釈ではありません。

さてその一霊とは直霊・直毘・直日から構成されているということでもあります。

※ 四魂とは和身魂即ち真身魂＋幸身魂＋奇身魂と荒身魂を指します。が、その四魂とは、各人それぞれの発達段階で形成レベルが異なっているということです。

※またエレブナによればその四魂とは今回の誕生で永遠のパーソナリティー（永遠の原子・生のスパーク）から形成された現在のパーソナリティーである私達自身の諸体（サイコノエティック体）の事でもあるということでもあります。

※私達現在のパーソナリティーはこの私達である永遠のパーソナリティーからの四魂なのであります。ただし現在の状況といえは、記憶によって覆われ雁字搦めになっており、そのことの自覚がないことがさらに私達に混迷を齎しています。

※和身魂（四魂の総合体、セルフエピグノーシス）は永遠の原子または永遠のパーソナリティーに繋がる原因体コーザル体のことであり  
今回の転生で新たに「肉体＋エーテル複体」と共に成長し形成されていく永遠のパーソナリティーと繋がっている現在のパーソナリティー（ヴィジュアルナマーヤコーシャ）の実体（アーナンダマヤコーシャ）ことであらう。

※条件付けられている脳と結合し、その 脳からの情報即ち脳からの低次思考という二元分離の根本無明（無知）に染まってしまっているの、その無知（穢れ）からの自由解放の度合い・・・というものが、それがそのまま、それぞれの持つ個人の四魂の形成レベルであり、それが即ち個人の実存レベル（自己意識・気づきレベル、セルフエピグノーシスの進化の度合い）であるということであるとおもわれます。

以下の解説は私の独自の解釈であります。

全人類は同じ四魂での構造であっても、四魂の形成度合いというものは、その我性（無知）からの解放度合いによって異なるということです。マインドにも個人差が発達度の差があるということです。

※私達はみな同じ構造の肉体を持ち同じ文化の中で生きているので教えや哲学や宗教に於いても同じようにそれぞれの教えは同じレベルから同じ様に話していると思っておりますが、それぞれの教えは、その教えが、どの実存レベルから話されているのかによって全く異なることを知らないで混乱することになります。この点でこの神道の一霊四魂の解説は非常に役に立ちます。その宗教がどの立ち位置から話しているのかを知る上で非常に役に立つからです。私達には五感を超えた高次の目がないのでだれがその教えを語っているのか、誰がどのレベルから話しているのかが分からないのです。教えを話す人の四魂の発達度合いによって教えも異なっているのです。

※黒住宗忠師のいう、「人の心とは天照御祖神の分霊である」というところのこの御分霊というのは一霊四魂の「一霊」のことであり、それは又「鏡」のことでもあります。「立ち向かう人の心は鏡なり己の姿を移してやみん」の教えのように、私達は合わせ鏡なのですが、鏡が「我的心」に包まれているので、私達の鏡にはその「我的心」しか写らないのです。その私達である鏡を「我的心」が覆い包んでいるので自分の鏡にも、相手の鏡にも、その私である鏡を覆い包んでいる「我的心」しか見る事が出来ない状況に陥ってしまっています。また我的心というのは、この四魂を覆い包んでいる根本無明即ち私という観念の記憶・思考を指しています。ここでいう記憶というのは人類共通同一の我的心（地球を取り巻く想念帯）のことであり、この我的心が各人の潜在意識を占有しているといわれています。また同じく天の心とはここで言う直毘即ち永遠のパーソナリティ・観照者のことを指していると思われま

## 【神道による各個人の構成実体】

◎直霊（神道でのナオヒ・天照大御神の御分霊、最高超意識、一霊、アートマン、

神聖なるハート、時空を超えている無我の I AM)

◎直毘（神道でのナオビ、鏡、高次潜在意識、靈魂・エレブナでの高次ノエテック体)

◎直日 (普遍的な高次潜在意識、聖なる脳の中樞、永遠のパーソナリティー、観照者)

(高次ノエティカル体、再形成されたサイコノエティック体、超意識、聖なる頭頂)

※以上が一霊を指しているのだと思われます。

◎和身魂 (神道でのニギミタマ、意識、セルフエピグノース (現段階の実存を支える意識の座、鏡)、

原因体、コーザル体、高次ノエティカル体・アーナングマヤコーシャ、高次マインドの状態

・レベルによって形成度合いが異なる

この和身魂・セルフエピグノース即ち現在のパーソナリティーの本体とは以下の諸体によって形成されている。

■奇身魂 (神道でのクシミタマ・頭部付近、松果体に接続、金色の光)

(ブッディー・幾段階の顕在意識・純粹理性・高次思考体・ヴィジュアルナマヤコーシャ、形成途中のメンタル体、ノエティカル体)

■幸身魂 (神道でのサチミタマ・胸付近現意識と接合、ホワイトピンクの光)

(感情体・形成途中のアストラル体、サイキック体、マノマヤコーシャ)

■真身魂 (神道でのマミタマ・太陽神経叢付近、ホワイトブルーの光)

(プラーナマヤコーシャ、太陽神経叢付近、各エーテル複体、ホワイトの光潜在意識体・肉体のエネルギー体)

## ■**荒身魂**（神道での肉体、肉体脳、アラミタマ、アンナマヤコーシャ）

※以上和身魂（奇身魂＋幸身魂＋真身魂）の三魂と荒身魂で四魂または御鏡ともいう。この四魂が肉体と繋がっている。

■この和身魂（ニギミタマ）と荒身魂（アラミタマ）を覆い尽くしているのが「条件付けられている脳からの記憶」、即ち根本無明（私という観念）。人の心である四魂（鏡）はこの無明の記憶に染まって汚濁して同一化しているということ・・・この現状の自己認識が身楔ぎの前提条件となるということでもあります。私達はこの自他を分離分割する無知・無明即ち条件付けられた脳からの「私という観念」の記憶に包まれ、その記憶からの思考（条件付けられている脳のプログラムから発出している）と一体化しているのです。

■この「記憶」が感覚と行為と思考を占領し、見ることも聞くことも話すことも、思う事も、行うことも支配しているので、この「記憶」からの自由解放がない限りは和身魂（ニギミタマ）は自分自身のことを理解することもなく発見もできないのであります。現在のパーソナリティーのセルフエピグノーシスの成長には自己想起と自己観察が必須です。

■直日（永遠のパーソナリティー）と繋がる和身魂（ニギミタマ）は最初の呼吸と共に大生命と一緒に新たなる四魂と新たなる荒身魂（アラミタマ）肉体と結合した瞬間からこの「記憶」に支配され奴隷となって肉体を自分だと実感し、その記憶・人格（エレメンタル）を自分だと錯覚しこの記憶と一体化して生き続けています。

※根本無明とは神聖なるマアヤ・私という観念のこと。

⇒条件付けられている頭脳を介して、この根本無知（自己）が和身魂

(ニギミタマ)の現在意識と潜在意識を覆い尽くしていると。

(記憶とは神道で言う穢れのこと、自我、我的心。ホ・オポノポノ  
でいう記憶とはこの私という觀念の記憶であり全人類で共通同一  
の無知無明の記憶のことでありましょう。)

※人格の私とは

永遠のパーソナリティーである直日から誕生した真の現在のパーソナリティー  
のことではなくて、その現在のパーソナリティー即ちセルフエピグノーシス・  
四魂によって創出されたエレメンタル「私」のこと、今生での記憶の人格のこと。  
私達である和身魂がこの記憶と同一化して産み出した想念形態の私のこと。  
⇒和身魂(ニギミタマ)が肉体と結合して産み出しているのが現在の人格  
(エレメンタル)であり、過去世に於いて産み出された人格がワサナ(過去の人  
格)です。サムスカーラ(前世からの実績・傾向)とカルマ(前世からの  
思考と行為の結果)を受けるのがこの和身魂(ニギミタマ)であり、こ  
の和身魂(ニギミタマ)がこの無知からの記憶から解放され自由となり、  
清まることで四魂が拡大して直日と再結合すると教えられております。

■ 私という觀念の記憶が、**この和身魂(ニギミタマ)～荒身魂(アラミタマ)**を

包み覆い隠している・・・その状態が私達・現在のパーソナリティー・現在のセルフ  
エピグノーシス・即ち四魂の現在意識の実情であると言われております。

この私達(和身魂)が同一化してしまっている記憶が、カルマ・DNAによって起  
こっている出来事に対して常時、反応している人格の私のことだと言われております。

私達の行為、思考、見ること、聞くこと、話すこと、知覚、欲望はこの記憶の反応であり、

この記憶によってコントロールされており、全てが支配されていると言われていました。

しかもそのことに私達現在のパーソナリティーは全く気がついていないのだと。

私達である現在のパーソナリティーの四魂は記憶の奴隷になってしまっ

ていることに私達自身も誰も気がついておりません。

それは例えるならば、私達であるこの和身魂（ニギミタマ）荒身魂（アラミタマ）

の現状とは、孵化していない卵の中にいる状態であり

卵から孵化し成長してヒヨコから大空へ羽ばたく鳥ようになって自由になる可能性

があるのだということ。

私達四魂は、この記憶と同一化しているので、記憶が見るように見、記憶が考えるように

考え、記憶が聞くように聞き、記憶が行うように行っていますが、私達は記憶、行為、

思考ではなく、天照大御神の御分心である一霊であり四魂であるといわれております。

私達は直日・永遠のパーソナリティーに繋がる現在のパーソナリティーでありこの私達

は四魂の身体を持っているのですと。

私達は幼く未熟であっても「神の子」であり、記憶ではありません。私達は記憶の思考

や感情や行為ではなくて、それらを認識している意識の「器・座」であり、「鏡」なのですと。

私達は思考ではなくて、本来は時空を超えている意識なのですと。現在はヒヨコすらに

成長していませんが、本来は大空に羽ばたく自由の白鳥なのですと。

意識とは思考や感情の「座」なのであってこの記憶でもそれからの低次の思考でもありま

せん。私達の本体それは高次の思考であり、高次の知性であり、高次の心・マインドです。

私たちは今のところは未知でありますがセルフエピグノーシスという意識であり、一霊四魂なのです。私たちは今のところは心が無知の記憶とその思考によって汚れてしまっているのです。

そしてその四魂の意識が無知無明からの記憶（思考）により、混濁し、自らが自らを識別できない状態に陥ってしまっているのです。

ですので、ですから私達は記憶が私達から祓われ、私達である四魂が清まり成長するためにも記憶の大元に向かって愛と感謝を捧げ、許しを請い懺悔すること。それによって、その無明である思考・記憶から解放されるように、直霊（天照大御神）に全託し帰依し祈る必要があるのであります。

※現在の人類の現況とは四魂が根本無明（穢れ・我性・私という観念及びその記憶）との接触によって形成されたエレメンタル・人格と一体化し混合しており、内なる実在、直霊・直毘・直日を顕していない（意識化されていない）状況にあるということです。

※私を許し、私に懺悔して、この私である思考を愛して、思考に感謝することがこの記憶の私からの解放への一つの有力なる方法・道なのであります。

本当は全ての全て一切は神であり、神以外には何ものも存在していないのであります。

私には知覚できませんが、神が万物一切すべてのわたしとして生きておられるのであります。

(以上が私の一霊四魂に対しての考えであります)